

港特別支援学校音楽部[MOC]から音のサプリメントで社会貢献

教育課程上の位置付 部活動(音楽部[MOC])

実施概要

今回の音楽部の活動は、これまでより踏み込んだ直接のふれあい交流を行いました。会場は施設の1階作業室です。鍵盤ハーモニカやリズム楽器を使った演奏や歌の発表の後、歌詞カードを配って利用者と一緒に秋の歌「里の秋」「赤とんぼ」「紅葉」の3曲を合唱しました。

手遊び歌「あんたがたどこさ」では、生徒と利用者がペアになり、手のひらを合わせて一緒に楽しみました。最後の曲「東京ブギウギ」ではダンスを踊り、閉会后利用者と握手して活動を終了しました。

活動参加者 当校 生徒…14人 担当教員…5人
内訳 交流先 利用者…30人 担当職員…8人

交通手段 当校と港南の郷との距離はおよそ350m
徒歩で訪問 約5分



東京ブギウギのダンス、リズムに乗って

活動報告 実施日：11月8日(水)

始めに、生徒は準備してきた手書きのメッセージ入りプログラムを利用者に手渡しました。最初は小さな声で挨拶をしていましたが、開会式を終えて1曲目の演奏を終了して拍手をもらって笑顔が見え始め、合唱を披露する時には大きな声でハーモニーを響かせていました。

次の、秋の歌3曲、「里の秋」「赤とんぼ」「紅葉」では、模造紙に書いた歌詞を施設のスタッフが指示棒で指して促したので、利用者の歌声が生徒の声に重なり室内全体に響きました。

手遊び歌「あんたがたどこさ」は、生徒が利用者の座席の前に入ってペアになり、歌に合わせて一緒に手のひらを合わせて手遊びを行いました。手のひらをうまく出すことができない利用者にも、生徒が膝に軽く手を置き、リズムを合わせていました。

最後は、利用者には懐かしい「東京ブギウギ」の曲に、ダンスの振りをつけて生徒が踊りました。利用者から手拍子が起こり、一緒に体を動かす利用者もいました。アンコールの声が上がると、生徒の表情が明るくなり、更に元気よくダンスを披露し、感動して涙を流す利用者もいました。

当日のスケジュール

- 13:20 学校、施設、SSC、都教委4者事前打合せ
(1階作業室奥のコーナー)
- 13:50 生徒入場 手書きメッセージ入りプログラムの配布
開会式 挨拶(生徒・施設)
・楽器演奏「ユイユイ」、合唱「海の歌」
・秋の歌3曲を一緒に歌う
・手遊び「あんたがたどこさ」(利用者の席の間に入って一緒に行う)
・ダンス「東京ブギウギ」
アンコールを受け、「東京ブギウギ」のダンスを披露
- 14:30 閉会式 生徒による感想インタビュー
挨拶(生徒、利用者代表)
- 14:40 終了

■活動のために準備したもの

- ・手書きメッセージ入りのプログラム
- ・司会原稿
- ・模造紙の歌詞紹介

■工夫したところ

皆様が楽しかったと思えるように、静かな曲からにぎやかな曲に進めることで、気持ちが盛り上がるような流れで進めるようにしました。また、ふれあい遊びを取り入れることで、皆様と生徒が楽しめる活動になるようにしました。

■実施にあたって注意したところ

関わりを多くもてるような流れにするにあたり、高齢者の方々への接し方、力加減などについて注意するよう事前に指導をしました。生徒同士で接し方を自分たちで考えながら、練習を繰り返して行いました。

■良かったと思うところ

利用者様が心から楽しんで感動してくださったことと、生徒の自信につながった取組になったことです。

■今後に向けての学校からの抱負

ふれあい遊びや利用者様の年代に流行った曲を選曲して、昔を思い出していただきながら楽しめる音楽交流会作りを行っていきたくと思っています。

活動の感想

生徒・教員の感想

生徒

- 笑顔で何度も握手してくださったので、喜んでいただけだと思います。
- 感動して泣いているおじいさんもおられて、とてもうれしい気持ちになりました。交流会ができて良かったと思います。いっぱい練習して良かったです。
- とても緊張しましたが、楽しい音楽交流会になって良かったと思います。

教員

「あんたがたどこさ」のふれあい遊びが入ることで、全体が和み、一体感が生まれる雰囲気づくりができたと思います。ダンスの後にアンコールをいただく事で、生徒たちの顔の表情がとても明るくなり、頑張れば人が喜んでくださるということを直接感じることができ、本人達の自信につながった音楽交流会になったと思います。

施設の参加利用者・担当者の感想

利用者

- とても良かったです。涙が出ました。わが子みたいで、近くに住んでいるので、子供たちの行き帰りを見かけるのですが、歌や演奏、ダンスがとても上手で驚きました。
- 感激の一言です。落ち込んでいる時には、元気がです。
- 生徒たちがとても頑張っていて、障害があるとは思いませんでした。

生活相談員

当日はとても心温まる交流ができました。歌、手遊び、ダンスとバラエティに富んだ内容で、生徒さんの一所懸命な姿から緊張感や楽しさなども伝わってきて、見ている全員がすぐに引き込まれてしまいました。最後のダンスはアンコールが出るほどの大変な盛り上がりでとても楽しい時間でした。涙を流して感激されている男性利用者も多く、利用者はどなたもとても喜んでいて、元気をもらったようです。メッセージ付きのプログラムにも心遣いを感じました。今後も良い関係を続け、さらに発展させていきたいと思っています。

■実施までの経過 ※(コ)：コーディネーター

- 7月26日 (コ)、学校を訪問。主幹教諭と打合せ。事業内容を説明し、確認
- 9月6日 (コ)、学校を訪問。副校長、主幹教諭、音楽部担当教員(以下教員)と打合せ
- 9月7日 (コ)、施設に連絡。教員の意向を伝え、施設のボランティア担当(以下担当)快諾
- 9月13日 (コ)、学校の教員とともに施設担当を訪問。活動日程、内容について相談
- 9月15日 (コ)、教員、施設担当と相談の上、社会貢献活動の日程を決定
- 10月15日 (コ)、当日の流れについて、教員と施設担当に確認、プログラム内容の確認

交流先



港区立高齢者在宅サービスセンター 港南の郷

住所：東京都港区港南3-3-23

■施設概要

通所介護、介護予防通所介護(定員30名)



スタートの楽器演奏「ユイユイ」、少し緊張



手遊び歌「あんたがたどこさ」では手を取り合って